



宮城県石巻市で開催された追悼 3.11 のつどい (がんばろう! 石巻の会主催)。「津波に負けたくない、地域の人を励ましたい」との思いで 2011 年 4 月から設置されている看板の前に、震災家屋の木片などを集めて種火をおこした灯火や献花台などが設置され、ヨロナ禍の今年にはライブ配信も実施されました

■ Contents

P2 被災地を支援する

【東日本大震災】

- ・一人ひとりに寄り添う支援 新規連携プロジェクトスタート
- ・未来を担う次の世代のために

【令和 2 年 7 月豪雨】

- ・ご寄付のお礼とご報告

P4 緊急対応体制を創る

- ・ COVID-19 医療・福祉施設をサポート
- ・ SEMA「防災まちづくり大賞」受賞
- ・ THE OWNERS に掲載

発行日：2021 年 4 月
発行：公益社団法人 Civic Force
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12
富ヶ谷小川ビル 2 階
TEL：03-5790-9366
e-mail：info@civic-force.org
URL：http://www.civic-force.org

東日本大震災 10 年、その先へ

東日本大震災から 10 年目を迎えた 2021 年 3 月 11 日 14 時 46 分、三陸沿岸の真っ青な空の下、追悼の祈りを捧げる人々の姿がありました。天に向かって飛んでいくたくさんの風船には「いつか笑顔で会いたい」「一歩ずつ進みます」と亡くなった人へのメッセージが書かれています。

東日本大震災の犠牲者は 18,000 人以上にのぼります。毎年 3 月 11 日に各地で実施される追悼行事は、犠牲者に祈りを捧げるとともに、家族や大切な人を失った人が心の痛みや復興への思いを共有する場として重要な意味をもちます。他方、地域のボランティアや有志によって続けられてきた追悼の集いは、震災から時間が経つにつれて継続が難しくなり、特に新型コロナウイルス感染症を前に厳しい判断に迫られていました。そこで、Civic Force は昨年と今年の 3 月、コロナ禍でも追悼行事の開催を決定した団体に対し、感染予防対策やオンライン開催のために必要な経費などを支援し、一人ひとりの心に寄り添う活動をサポートしました（詳細 p3）。

被災者の喪失感や悲しみは時間が経っても消えることはなく、むしろトラウマ反応などは時間が経ってから見られることがあります。震災から 10 年が経った今、Civic Force は継続的な心のケアや地域を元気にするまちづくりの活動を引き続き応援していきます。

今号のニュースレターでは、4 月スタートの新しい東北支援のプロジェクトについてご紹介します。

被災地 を 支援する

日本各地で発生する災害時の緊急支援活動や被災地の復旧・復興に向けた取り組みなどについてお知らせします。

東日本
大震災

一人ひとりに寄り添う支援 新規連携プロジェクト スタート！

東日本大震災「新・夢を応援 ×NPO パートナー協働事業」では、「コミュニティ再生」「福島・保養支援」「記憶の伝承」の3つのテーマを軸に、甚大な被害を受けた地域をサポートしています。3-4月にスタートする新しい連携プロジェクトについてご紹介します。

■ ころこスマイルプロジェクト

ころこに傷を負った親子のケア（宮城）

震災で家族や大切な人を失うなど、ころこに深い傷を負った子どもたちに寄り添ってきた（一社）ころこスマイルプロジェクト。不登校やひきこもり、精神疾患のある子どもやその家族へのカウンセリング、家庭訪問、学習サポート、グリーフケアなどを通じて、深い悲しみを背負った遺族をサポートしています。ころこのケアなどの活動は対象者が限定され公的支援が得られにくく、また資金調達のための広報活動も簡単ではありません。Civic Force は民間にこそできる支援として、一人ひとりに寄り添う心の復興も応援していきます。



■ こそだてシップ

妊娠期からの切れ目のない育児支援（岩手）

医療過疎の被災地でも安心して子どもを産み、育てられる環境をつくろうと、地域の助産師らが集まって設立された（特活）こそだてシップ。マタニティスクールからベビーサロン、産後ケア、そして乳幼児を守る防災事業まで、妊娠期から切れ目なくつなぐ子育て支援事業を実施しています。

■ しんせい

障がい者による SDGs 実践の場づくり（福島）

原発事故により避難を余儀なくされた障がい者が、避難先の郡山市の豊かな自然のなかで多様な人と交わりながら活躍できる福祉農園「SDGs 実践の発信基地」をつくるプロジェクト。（特活）しんせいは、年間を通じて屋内外でのワークショップを開催し、企業や地域住民とともにベースキャンプをつくり、SDGs 勉強会の開催も目指しています。



■ 石巻復興支援ネットワーク（2期）

親子の居場所づくりと復興住宅支援（宮城）

1期で実施した「ママ・子ども食堂」から見えてきたニーズに応えるため、虐待やDVなどから母子を守るためのシェルターを運営し、専門的なケアや公的サービスを受けられるようサポートします。自立を助ける就業支援の活動も継続します。また、復興公営住宅のコミュニティ支援事業では、震災とコロナの影響で孤立しがちな高齢者の主体的なコミュニティづくりを後押しします。

令和2年
7月豪雨

ご寄付のお礼とご報告

7月豪雨の活動報告はこちら→



「令和2年7月豪雨」の緊急支援活動を開始した2020年7月4日から2021年3月末までに、約770万円（運営費含む）のご寄付が集まりました。いただいたご寄付は、空飛ぶ捜索医療団”ARROWS”のレスキュー活動や支援物資の配布、被災地で活動するNPOとの連携事業などに活用しました。7月豪雨のご寄付受付は3月末で終了しましたが、事業は継続中です。ご寄付をいただきました皆様、ありがとうございました！

未来を担う次の世代のために

東日本大震災の被災地で活動する NPO と連携する「新・夢を応援 NPO パートナー 協働事業」。2021 年 3 月現在、実施中のプロジェクトをご紹介します。

三陸ひとつなぎ自然学校

子どもたちの「生き抜く力」を育てる

岩手県釜石市で若者の地域参画と防災教育を掛け合わせた次世代育成事業を展開しています。津波でダメージを受けた海浜環境を再生するプロジェクトや高校生の防災・伝承グループの運営サポート、中高生のキャリア教育プログラムなど子どもたちのニーズに寄り添いながら一人ひとりの「生き抜く力」を育てています。



相馬救援隊

馬とともにある地域の誇りを取り戻す

相馬野馬追をはじめ馬事文化を継承してきた福島県相馬双葉地方。原発事故の影響で人口が激減しましたが、2020 年 3 月、全町避難が続いていた双葉町の一部で避難指示が解除され、少しずつ人が戻ってきています。地域に活気を取り戻すため、相馬救援隊は馬と触れ合うイベントの開催やフォトコンテスト、講習会などを開催しています。



311 受入全国協議会

オンライン会議「コロナ禍の保養事業」



原発事故後、心身への影響を受ける親子を支える全国の支援団体を広範囲につないできた 311 受入全国協議会。新型コロナウイルスの影響で全国の加盟団体の保養活動が停滞するなか、2021 年 1 月から 2 月、加盟 46 団体にアンケートを実施しました、また、2 月 27 日に「コロナ禍での保養事業」をテーマにオンラインミーティングを行いました。

地球のステージ（閉上の記憶）

オンラインでも 追悼の祈り

がんばろう石巻

宮城県名取市で震災伝承の活動を続ける閉上の記憶（地球のステージ）と、宮城県石巻市の市民団体、がんばろう石巻。両団体は毎年 3 月 11 日、それぞれの地域で追悼行事を実施してきました。今年は新型コロナウイルスの感染対策を行った上でオンラインでも開催しました。写真は閉上の記憶主催の「追悼のつどい」。



Pick Up!

仮設住宅の経験を次に生かすために 4月 書籍発行予定

「孤独死をなくそう」をスローガンに被災地のコミュニティを支えてきた一般社団法人石巻じちれんは、4 月、宮城県石巻市の仮設住宅の経験や教訓をまとめた書籍を発行します。詳しくは石巻じちれんホームページで掲載予定です。



被災自治体のなかで最も多くの仮設住宅が建設された宮城県石巻市では、2020 年 1 月に最後の入居者が退去するまで「人の暮らし」がありました。東日本大震災以降、仮設住宅の建物をはじめハード面は改善されましたが、ソフト面の検証はまだ十分ではありません。そこで 1 年以上前から地域の人々へのヒアリングを続け、仮設住宅団地の運営手法や立地などが被災者の生活に与える影響について分析。その結果をまとめたのが本書です。災害が頻発する昨今、全国の自治体や災害支援団体の皆さんに読んでいただきたいです。



事務局長 田上琢磨さん

緊急 即応体制 を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。メディア掲載やご協力いただいている皆様の関連情報もお知らせします。

COVID-19 医療・福祉施設をサポート

新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、Civic Force が参画する空飛ぶ捜索医療団 ARROWS は、年末年始にクラスターが発生した医療・福祉施設に医師や調整員を派遣しました。また、Civic Force のトレーラーやテントは引き続き九州や関西の医療機関で、感染拡大防止のために活用されています。

緊急即応体制 SEMA「防災まちづくり大賞」

Civic Force が参画する緊急災害対応アライアンス「SEMA（シーマ）」が総務省消防庁主催の「第25回防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会会長賞」を受賞しました。

緊急即応体制 もっと気軽に社会貢献！

《活動全般》

- バリューボックス「チャリボン」
<http://www.charibon.jp>
- ヘッズ「チャリティハピネスレジ袋」
<https://www.e-heads.co.jp/products/detail2/3219>
- サンナップ（アスクル限定販売）
「フェーズフリー認証 紙コップ メジャーメント」
<https://www.askul.co.jp/p/P678379/>
- 本棚お助け隊「古本チャリティ募金」
<https://hondana.biz/second-hand-books-selling-for-charity/charity.html>
- EC ナビ「スマイルプロジェクト」
https://ecnavi.jp/smile_project/

《新型コロナウイルス緊急支援》

- Yahoo! ネット募金
NPO パートナー協働事業 <http://donation.yahoo.co.jp/detail/3747017>
病院にトレーラー等貸与 <http://donation.yahoo.co.jp/detail/3747016>
- GlobalGiving（英）
<https://www.globalgiving.org/projects/coronavirus-relief-aid-distribution/>

《東日本大震災》

- Yahoo! ネット募金
<http://donation.yahoo.co.jp/detail/3747011>

メディア 「THE OWNER」に掲載

オンラインメディア「THE OWNER」で、東北共益投資基金と Civic Force の活動が紹介されました。タイトルは「東日本大震災から10年 逆境の地から生まれるイノベーション」。



緊急即応体制 1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力が重要です。マンスリーサポーターとして毎月定額（1,000円単位）をご寄付いただく形でともに備えてください。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

- 銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964
- ゆうちょ：00140-6-361805

（上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジン シビックフォース」）

- クレジットカード：HP「オンライン募金」より
<https://bokinchan3.com/civicforce/donation/bokin/page1.php>

※ニュースレターのバックナンバーは、
<https://www.civic-force.org/news/newsletter/>
からご覧いただけます。

延長決定！

